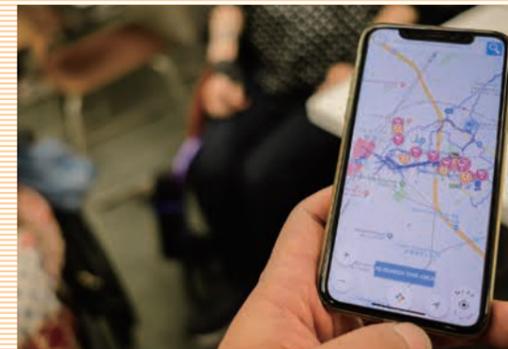


国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。

令和3年3月



プログラム

令和3年3月15日(月)

● 選考委員からの講評

中央大学 研究開発機構 教授

秋山 哲男 氏

東洋大学 名誉教授

高橋 儀平 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

一般社団法人 WheelLog

【みんなでつくるバリアフリーマップの新たな展開】

車いすです実際に走行したルートや、ユーザー自身が実際に利用したスポットなど、ユーザー体験に基づいたバリアフリー情報を共有できる「ユーザー投稿型」の新しいバリアフリーマップのプラットフォームを構築し、車いす当事者だけでなく、健常者も参画し、一緒に自分の街や旅行先で見つけたバリアフリー情報を投稿するなど、参加型のバリアフリーマップの展開に大きく寄与した。

株式会社パームロイヤル

【宿泊施設における多様な利用者への配慮と誰一人取り残さない夜間訓練の取組】

LGBTの方も含め誰でも利用しやすいバリアフリートイレの設置や社内でのマナー研修を実施するなど、ハード・ソフト両面で多様な利用者に配慮した環境整備を推進するとともに、視覚障害者や聴覚障害者等を対象とした夜間防災訓練を全国初で実施し、障害のある方にも安心して滞在できる観光地の形成に寄与した。

● 表彰状授与式

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第14回となる今回も多くの優れた取組が推薦され、なかでも特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組を普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組がより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学 研究開発機構 教授
高橋 儀平	東洋大学 名誉教授
星加 良司	東京大学 大学院教育学研究科附属 バリアフリー教育開発研究センター 准教授
新田 保次	大阪大学 名誉教授
河野 康子	一般財団法人 日本消費者協会 理事

第14回受賞者の決定

13候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、2件の受賞者を決定しました。

第14回となる今年度の表彰においては、全国各地から13件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組が展開されつつあることがうかがえます。

全13件は、ハード面(施設整備等)からソフト面(支援活動等)に渡る幅広い取組をご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道・バス・空港といった公共交通や建築物等について、新たな技術開発も含め、意欲的にバリアフリー化を進める取組が見られます。あわせて、ソフト面での支援も含め、きめ細かなバリアフリー化を進める取組も見られます。また、地域の事業者との連携や学校出前体験講座など地域に根ざしたバリアフリー化等の取組が見られるところです。他にも障害当事者団体としての取組やスマートフォンアプリの活用などバリアフリー化の取組が幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組であっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「一般社団法人WheeLog」は、車いすだからと外出を諦めていた遠位型ミオパチーである織田さんが、バリアフリー情報があると世界が変わると考えたことでバリアフリーマップが誕生しました。これはスマートフォンの参加型アプリにより、みんなが歩いた後にGoogle mapをベースとしたバリアフリーの情報積みあがって行くもので、日本や世界各地で実現してゆくものです。アプリの構成は、①ルートを記録する「走行ログ」、②多目的トイレなどの場所を示す「スポット」、③ユーザー同士の交流する「つぶやき」、④ユーザーが知りたいスポットのバリアフリー情報を依頼する「リクエスト」、の4つの機能があります。さらに、オープンデータ化によ

りファミリーマートなどの多目的トイレの設置店舗情報を共有や10か国語の対応なども行っています。さらに、情報を増やすバリアフリー調査や街歩き体験も行っております。これらの取組を評価し表彰することとしました。

「株式会社パームロイヤル」は、長年にわたり高齢者、障害者等の当事者に立脚した様々な取組を、地域の観光事業と連携して一体的に展開してきました。特にパームロイヤル那覇を15年前に開業、近年では、高齢者、障害者や性的マイノリティの方々をはじめ多様な観光客や利用者に配慮した取組を積極的に展開しています。とりわけ、これまで理解が不十分とされてきた性的マイノリティの方々の平等化に向けて地元企業と連携して推進し、県内ホテル業界への波及を目指しています。施設整備面では、バスルームは1416規格という汎用タイプを採用しながら、段差の解消、出入口有効幅員の確保などきめ細かな取組を進めています。これら、ホテル観光業と一体となったハード・ソフトのバリアフリーの取組を高く評価し、表彰することとしました。

なお、今回ご推薦いただいたものには、それぞれの特徴ある取組も多く、今回受賞とならなかったものにも優れた取組がありましたので、その一部を掲載しております。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組を継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組が参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>



秋山 哲男 委員
(中央大学 研究開発機構 教授)



新田 保次 委員
(大阪大学 名誉教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 名誉教授)



河野 康子 委員
(一般財団法人 日本消費者協会 理事)



星加 良司 委員
(東京大学 大学院教育学研究科附属
バリアフリー教育開発研究センター 准教授)

講評

WheelLog! は車いすだからと外出を諦めていた遠位型ミオパチーである織田さんが、バリアフリー情報があると世界が変わると考えたことでバリアフリーマップが誕生した。これはスマートフォンの参加型アプリにより、みんなが歩いた後に Google map をベースとしたバリアフリーの情報が積みあがって行くもので、日本や世界各地で実現してゆくものである。アプリの構成は、①ルートを記録する「走行ログ」、②多目的トイレなどの場所を示す「スポット」、③ユーザー同士の交流する「つぶやき」、④ユーザーが知りたいスポットのバリアフリー情報を依頼する「リクエスト」、の4つの機能を有する。さらに、オープンデータ化によりファミリーマートなどの多目的トイレの設置店舗情報を共有や10か国語の対応なども行っている。さらに、情報を増やすバリアフリー調査や街歩き体験も行っている。

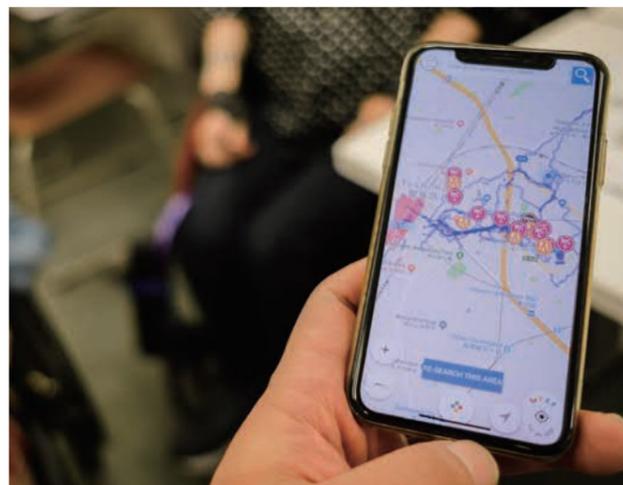
受賞者の取組

取組の概要

一般社団法人 WheelLog では、「車いすでもあきらめない世界」をみんなで作ることを目指し、「ユーザー投稿型」の新しいバリアフリーマップのプラットフォームを構築するとともに、車いすユーザーと健常者が一緒に街へ出かける「街歩き体験」等のイベント活動を行っている。

● 新しいバリアフリーマップのプラットフォームの構築

一般社団法人 WheelLog では、車いすですぐ実際に走行したルートや、ユーザー自身が実際に利用したスポットなど、ユーザー体験に基づいたバリアフリー情報を共有できる「ユーザー投稿型」のバリアフリーマップアプリ「WheelLog!」を開発した。この「WheelLog!」は、車いす当事者だけでなく、健常者も参画し、一緒に自分の街や旅行先で見つけたバリアフリー情報を投稿することができる。例えば、車いす当事者が実際に通った道や、実際に利用したスポットなど、ユーザー体験に基づいたバリアフリー情報が投稿されており、世界中のバリアフリー情報をアプリで検索・投稿することができる。



みんなで作る 世界一あたたかい地図



「ユーザー投稿型」の新しいバリアフリーマップのプラットフォーム

● 車いすユーザーと健常者が一緒に街へ出かける「街歩き体験」イベントの開催

一般社団法人 WheelLog では、バリアフリーマップアプリ「WheelLog!」を活用して、車いすユーザーと健常者が一緒に街へ出かける「街歩き体験」のイベントを全国各地で開催している。このイベントを通じ、バリアフリー情報を投稿するにあたって、バリアフリーに関する様々な課題について解決策を自ら考えるという当事者意識を醸成するとともに、自分たちが暮らす地域の問題点についても考えるなど、心のバリアフリーを通じた地域活性化に貢献している。



全国での街歩き体験の様子 (2019年 小田原にて)



街歩きを通じた心のバリアフリーの醸成

◎ 今後期待される取組

今後のバリアフリー情報の質を高める努力を期待したい。例えば、走行ログの余分な情報をカットし、質の高いスポット情報を強化すること。これにより、利用者の使い勝手が一段と強化できる。このようなデータの量と質を上げるうえで、技術的にはプラットフォームづくりや、財政的には行政や企業の支援が不可欠な領域である。

喜びの声



一般社団法人 WheelLog
織田 友理子 氏

【コメント】

この度は大変栄誉ある賞をいただき光栄に存じます。WheelLog! の活動は多くの運営委員、寄付会員、そしてユーザーの皆さまに支えられています。

2017年5月に白地図だったこの地図も、今や2万8千人のユーザーによって3万8千件のバリアフリー情報が投稿される「世界一あたたかい地図」へと成長しました。私たちは、車いす当事者だけでなく健常者も参画し、「みんなで作るバリアフリーマップ」として全世界のユーザーと情報をシェアすること、さらにそこで生まれる「人と人のつながり」によって、地域共生のバリアフリー社会と「車いすでもあきらめない世界」を実現することを目指して活動しています。この受賞を機に、さらに多くの方にWheelLog!を知って、体験していただければ幸いです。

末筆ながら、選考委員の皆様には今後のWheelLog!について大変貴重なご示唆を賜り、大きな励みとなりました事、心より御礼申し上げます。

【連絡先】

東京都千代田区九段北 1-15-2
九段坂パークビル 4階 M&K コンサルタンツ内

【活動等の経緯】

- 2015年 Google インパクトチャレンジ グランプリを受賞・アプリ開発に着手
- 2017年 スマートフォンアプリ WheelLog! をリリース
WheelLog! を活用した街歩き体験、教育プログラム開発、バリアフリー調査を開始
- 2018年 一般社団法人 WheelLog を設立
- 2019年 スマートフォンアプリ WheelLog! を10言語に対応
ドバイ万博グローバル・イノベーターに選出
- 2020年 ウェブ版 WheelLog! の開発・リリース (7月)

【Web-URL】

<https://wheelog.com>

講評

株式会社パームロイヤルの評価は何よりも、一貫して利用者、当事者に立脚した取組姿勢、地域への貢献意志を強く具現化してきたことである。ホテルパームロイヤル NAHA 国際通りは、沖縄発のホテル業として15年前に開業、その後継続して沖縄観光業の発展に尽力してきた。近年では、高齢者、障がい者や性的マイノリティの方々をはじめ多様な観光客や利用者へ配慮した取組を積極的に展開している。とりわけ近年では、性的マイノリティの方々の平等化に向けて地元企業との連携を育み、県内ホテル業界への波及効果が極めて高い。一般客室のバスルームは1416規格というビジネスホテルタイプを採用しながら、段差の解消、出入口有効幅員の確保などきめ細かな努力が見られる。以上、株式会社パームロイヤルが我が国のハード・ソフトの一体的なバリアフリー環境の推進に多大な貢献をしていることを高く評価する。

受賞者の取組

取組の概要

パームロイヤルは、LGBTの方も含め誰でも利用しやすいバリアフリートイレの設置や社内でのLGBTマナー研修や防災危機研修を実施するなど、ハード・ソフト両面で多様な利用者へ配慮した環境整備を推進するとともに、視覚障害者や聴覚障害者等を対象とした夜間防災訓練を全国初で実施し、障害のある方にも安心して滞在できる観光地の形成に寄与した。

● ハード・ソフト両面での多様な利用者へ配慮した環境整備

LGBTの方も含めた誰でも利用しやすいバリアフリートイレへの改修や、誰でも分かりやすいピクトグラムの設置などのハード面での環境整備を行うとともに、社員に対するマナー研修を継続的に実施するなど、ソフト面の取組を行うことにより、ハード・ソフト両面での多様な利用者へ配慮する取組の普及に寄与している。



定期的に行われるLGBTマナー研修の様子

● 誰一人取り残さない夜間訓練の取組

ホテル営業中の『夜間』にて言葉の通じない外国人やけがをした宿泊客、聴覚、視覚障害、車いすの肢体不自由の方（実際に障害当事者の方が参加）を対象とした夜間消防訓練を全国で初めて実施し、日々の防災危機管理徹底を目的とした様々な障害のある方を安心して滞在できる観光地形成に寄与した。



全国初夜間営業中での消防訓練にのぞむ参加者



総支配人によるクリーンスタッフへ防災危機管理研修の様子

◎ 今後期待される取組

ホテルパームロイヤル NAHA 国際通りが展開してきた高齢者、障がい者をはじめ性的マイノリティの方々等の尊厳重視と平等化への取組は観光業に不可欠な考え方である。この考え方を基に当事者と一体となった従業員教育、体験学習、他事業者への波及が素晴らしい。今後も多くの困難が予想されるが、是非とも様々な事業者との合意形成を経て、県内外、海外の観光業やホテル業界への持続的発展的な展開を期待したい。

喜びの声



株式会社パームロイヤル
代表取締役総支配人 高倉 直久氏

【コメント】

この度は開業15周年という節目に国土交通大臣表彰を授与できましたこと、スタッフ一同大変光栄に思っております。沖縄を愛する地元企業としてすべての人に優しい島『ダイバーシティアイランド OKINAWA』の実現に向けての取組、継続した社会還元をしていくことを念頭に置いた社会変革を目指してまいりました。来館されるすべてのお客様が安心して快適にご利用・ご滞在いただけるように、ハード面におけるバリアフリー対応はもとよりソフト面での心のバリアフリー対応を意識したおもてなしを継続するとともに、沖縄の基幹産業である観光業の更なる発展に寄与すべくバリアフリー化推進を業界あげて尽力して参りたいと思います。

【受賞者】

ホテルパームロイヤル NAHA 国際通り
(株式会社パームロイヤル)

【連絡先】

098-865-5551

【活動等の経緯】

- 2014年 心のバリアフリー対応として全国のホテルで初めてLGBTフレンドリー宣言を実施
- 2016年 すべての方に配慮したバリアフリー（ジェンダーフリー）トイレを九州・沖縄地区で初めて設置
- 2018年 全国で初めて障がい者、外国人らを含めた夜間営業中での大規模消防訓練の実施
その他・継続的な取組として定期的な防災訓練、心のバリアフリー対応セミナー等の実施

【Web-URL】

<http://www.palmroyal.co.jp>

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰に推薦のあった優れた取組の紹介

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、受賞案件を選考した際、今回、惜しくも受賞にならなかったものの中にも優れた取組がありましたので、その一部を合わせて紹介いたします。

紹介にあたっては、受賞のあった案件と同様、選考委員からの講評及び今後期待される取組を記載しております。選考委員一同、引き続きこのようなすばらしい取組が継続的に進み、今後さらなる進展があることを期待しております。

■ 取組紹介

- ・「[障害]を[攻略]する観光バリアフリーのまちづくり」・・・・・・・・・・・・・・・・
石川県中能登町
- ・障がい者・自治体・小学校の3者が連携した心のバリアフリーの取組・・・・・・・・
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会・茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
- ・車いすのまま乗車できるエレベーター付バスの関西初の空港連絡バスへの導入・・・
大阪空港交通株式会社・関西空港交通株式会社

講 評

石川県中能登町の取組は、型通りに収まりがちな自治体の取組において、中能登町障害攻略課という名称が、バリアフリー対策に明るく前向きなインパクトを与えている。道路の段差、不親切な看板、難解な行政用語、未就学児の居場所やしきたりの多い神社仏閣など、住民生活における暮らしづらさや分かりにくさを総じて社会障害ととらえて対策を講じているところがユニークである。特別な誰かのための単一の取組とはせずに、地場産業の振興、観光の推進、教育・文化の活性化や障害者・高齢者福祉の充実など、自治体の各種施策と戦略的に組み合わせることで、相乗効果を上げている。何よりもゲーム感覚で楽しく取り組んでいる点が素晴らしい。

石川県中能登町の取組

● 「障害攻略課プロジェクト」の発足

石川県中能登町では、「障害」を社会障害ととらえ、ゲーム感覚で楽しく「攻略」するというコンセプトで、障害者当事者や町民等が参画した「障害攻略課プロジェクト」を発足させた。このプロジェクトでは、町内にある障害を「ゲーム感覚」で攻略することをコンセプトに、観光施設のバリアフリー化や、「バリアフリー滝行」、「やさしい道中行列」等を実施し、障害をもった方でも気軽に訪問できるやさしい観光地づくりを目指している。



◎ 今後期待される取組

外部からのアドバイスを活かした各種イベント開催をきっかけにして地域での多様な取組を進めているが、地域住民の主体的な関与が見えにくい。多様な社会障害に対して目覚めた住民の意識を、いかに継続発展させ、地域全体のリテラシー向上と行動変容につなげるか、今後の取組に期待したい。

プロフィール

【団体名】

石川県中能登町

【連絡先】

石川県鹿島郡中能登町末坂 9 部 46 番地

【Web-URL】

中能登町ホームページ
<https://www.town.nakanoto.shikawa.jp/>
 障害攻略課プロジェクトサイト
<http://shogai-koryaku.com/>

【活動等の経緯】

中能登町は豊かな自然と歴史、文化が息づく町です。人口の減少や高齢化に伴い、能登のやさしい風土や魅力を大切に守り続けるためには、世代を超えた地域共生社会の実現が求められます。当町では、障がい者や健常者、高齢者から小さい子どもまで、全ての方が分け隔てなく楽しむことができる観光地やまちづくりを推進するため、平成29年4月から「心のバリアフリー先進地」を目指して「障害攻略課プロジェクト」に取り組んでおります。「バリアフリー滝行」や「障がい者ファッションショー」「繊維スポーツ」の3つの柱を軸に、基幹産業である繊維を活かして、社会にある障害を楽しくゲーム感覚で課題解決していきます。

「障がい者・自治体・小学校の3者が連携した心のバリアフリーの取組」

講 評

バリアフリー基本構想推進に取り組んでいる行政と市民組織、小学校学習指導要領改訂により「心のバリアフリーのための交流」に取り組むこととなった教育現場と、さまざまな障害を抱えた当事者が、同じ目線で連携することで、生きたバリアフリー教育の実践事例を作りあげた。関係者が綿密に話し合いを重ね、連続性をもたせ対話を重視することで、「相手を知る」「相手を思いやる」「感謝を伝える」という人と人とのコミュニケーションにおける当たり前の手段で、障害への理解と心のバリアフリー推進への効果的なアプローチが実現した。障害を持つ当事者や市民、先生方を含め関係者誰もが生き生きと自発的に参画している様子から、この取組に参加する次代を担う子供達を通じて、社会の気づきと変容につながる大きな可能性を感じた。

茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会・茅ヶ崎市立鶴嶺小学校の取組

● 心のバリアフリー教室の実施（障がい者と児童との交流授業）及び共感を目指す普及啓発活動

市民部会は、心のバリアフリー推進を目指し障がい者等の声を市民に広く周知するための活動を実践してきた。市民部会と小学校が連携し障がい者と児童との「対話と交流、そして気づき」を重視した体験型「心のバリアフリー教室」を実施し、障がい者と児童との出会いを通じ互いの理解を深め、児童に思いやりや支え合う心といった「気づき」が生まれた。また、市発行の広報紙等を活用し「ありがとう」から始まるバリア解消メッセージを継続発信し、バリアフリー社会の実現（市民の相互理解）に取り組んでいる。



◎ 今後期待される取組

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、日々の生活や教育現場の行動が制限される中での取組の推進には困難が予想されるが、鶴嶺小学校で手応えを得た「心のバリアフリー交流」を市内全域や他の自治体へ着実に広げてほしい。

プロフィール

【団体名】	【活動等の経緯】
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会・茅ヶ崎市立鶴嶺小学校	2016年 心のバリアフリー推進のため市民部会設立
【連絡先】	2017年 障がい者の外出促進
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会事務局（茅ヶ崎市都市部都市政策課）：茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号	2018年 アンケート調査、リーフレット（案）作成
茅ヶ崎市立鶴嶺小学校：茅ヶ崎市浜之郷477番地	2019年 普及啓発ツール作成、心のバリアフリー教室

【Web-URL】
茅ヶ崎市ホームページ（茅ヶ崎市バリアフリー基本構想）
<https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1015026/index.html>

「車いすのまま乗車できるエレベーター付バスの関西初の空港連絡バスへの導入」

講 評

「大阪空港交通株式会社・関西空港交通株式会社」は、車いすのまま乗車可能な空港連絡バスの新たなタイプとして「エレベーター付きリムジンバス」を2019年12月に関西空港路線（大阪空港、尼崎駅を結ぶ）に導入した。同タイプの車両は2018年に日本で初めて、東京空港交通株式会社が運行しており、関西では初めての試みである。残念ながら、国内2例目ということもあり、受賞には至らなかったが、このバスの導入により、車いす利用者の利便性が大きく向上することに貢献している点は評価に値する。

大阪空港交通(株)・関西空港交通(株)の取組

● エレベーター付きリムジンバスの導入とユニバーサルサービスの拡充

大阪空港交通(株)・関西空港交通(株)では、車いすのまま乗車可能なエレベーター付きリムジンバスについて、関西地区において初めて空港連絡バスとして導入し、営業運行を行った。これにより、停留所施設の制約や天候等の影響が軽減され、車いすのまま乗車可能な高速路線の選択肢が増え、さらなるユニバーサルサービスの拡充につながった。また、エレベーター付きリムジンバスの導入に合わせ、運転士はもとより全社員及び関連社員を対象に「心のバリアフリー研修（サービス介助セミナー）」を開催し、ソフト面でのスキルアップ向上に取り組んだ。



大阪空港交通(株)



関西空港交通(株)

◎ 今後期待される取組

関西には、関西空港に加えて大阪空港、神戸空港があり、これら3空港にアクセスする交通手段として、リムジンバスへの期待は大きい。しかしながら、現時点では、車いすの利用者が自由に使えるといった状況にはなっておらず、エレベーター付きリムジンバスの普及を期待したい。

プロフィール

【団体名】	【団体名】
大阪空港交通株式会社（大阪府豊中市蛸池西町2丁目17番3号）	関西空港交通株式会社（大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の12）
【活動等の経緯】	【活動等の経緯】
1963年 大阪空港交通株式会社設立	1991年 関西空港交通株式会社設立
1994年 関西国際空港開港 及び 同空港発着路線を開設	1994年 関西国際空港開港と同日に事業開始
2019年 エレベーター付きリムジンバス（1両）導入、関西空港～大阪空港線 1日2往復運用開始	2019年 エレベーター付きリムジンバス（1両）導入、関西空港～大阪空港線、関西空港～尼崎線各1日1往復運用開始

【Web-URL】
<https://www.okkbus.co.jp/>

【Web-URL】
<https://www.kate.co.jp>